◇巻頭言◇

変わることを恐れずに

会長　川島孝夫
（昭和31年卒）

今年度の総会・懇親会が六月十七日、道内外から六百名を超す同窓の参加の中で例年同様、最高の盛り上がりを見せ終了できましたことに対し心からお礼申し上げます。母校のキャンパス再編初年度でもあり、母校や夕陽会に対して様々な感慨を持って参加された方も多かったのではないでしょうか。

一八六〇年代、小国に分立していたイタリアが統一国家を目指し、台頭してきた新興勢力のブルジョア階級と従来の社会体制を保持しようとする旧勢力階級の公爵たちとが争うイタリア統一戦争があります。そうした時代背景をテーマとしたシチリア島を舞台として描かれた一大叙情詩映画「山猫」がありますが、その映画の中でバートランカスター扮する老公爵が時代の変化についていけない仲間達を励ますため「変わらないで居続けたいなら　変わらなければならない」と言う台詞があります。

ついにこの四月、大正三年から続いた教員養成課程の募集が母校から消えました。建学の精神「土地墾闢・人民蕃殖」のもと道内外の教育界に大きな貢献を果たしてきたことを思うとその歴史と伝統が途切れたことに限りない寂しさと無念さを感じます。

然し、少子化や学校統廃合の影響で毎年、国内から二百から三百の小学校が消え去っているとも言われています。このような状況の中で大学法人化のもと、教員養成を専門とした大学経営の難しさからキャンパス再編への道を選択した母校の意図を私達も理解し、新たな母校の発展を支援していかなければならないと思います。

幸い心配していた今春の母校に対する志願者は予想を上回り、定員の五倍を超す数であったと聞いています。これは再編初年度を迎え、大学側の懸命な努力により新課程「人間地域科学課程」で学習・研究することの魅力や将来性、加えて函館校の歴史や伝統を生かした教員資格取得の為のサポートが充実していることなどが志願者に良く理解された結果でしょう。年々大学進学者減少の進む中、再編初年度にこうした結果が見られたことは誠に喜ばしいことであり、母校の将来にとって明るい展望が見られたことを喜び、これからもこのような状況が続いてくれるよう期待したいものです。

このように母校が大きく変革した現在、当然、夕陽会の運営やその組織の在り方もそれに対応し変わって行かねばならないことは必然的なことであります。既にゼロ免課程が誕生し、二十年近い歳月が流れ、教職以外の分野で活躍している同窓も数多くおられます。近い将来、教職以外の同窓が中心となる夕陽会の時代の到来のための準備を急がねばなりません。そのためには、教職以外の社会で活躍する同窓とこれから巣立つ学生諸君に魅力ある同窓会として受け入れられるための新しい夕陽会創りの議論を深めて行く必要があります。

「変わることの痛みを受け入れていく覚悟が無ければ　衰退の道を進むしかない」と言われます。九十年の伝統と歴史を土台とした新しい夕陽会の誕生を夢み、変わることを恐れず、明日の夕陽会の発展を期待しながら進んで行きたいものです。

会・大懇親会

於　函館国際ホテル

顧問・参与会

六月一日（木）函館ハーバービューホテルにおいて、第六回役員会に引き続き、細田辰男顧問（昭和十一年卒）、八木幸夫参与（昭和十九年卒）等の参加を得て顧問・参与会が開催された。

冒頭、「母校が新しく生まれ変わり、教員養成大学として生き続けるのが厳しい状況ではあるが、将来へ希望を持ち、新しい発想で新しい道を切り拓いて行きたい」との川島会長の挨拶で会は始まった。

宮下勤副会長の議事進行で報告協議が行われ、総会議案審議では十八年度運営方針推進事項の中の今後の夕陽会組織の強化、特に平成二十年に予定されている夕陽会創立九十周年記念事業への準備や母校への支援について力点を置くこととなった。

最後に役員の改選について協議し、この会を終えた。

顧問・参与会

全国支部長会議

夕陽会総会に先立って午後一時三十分より、二十八支部の代表の参加を得て、全国支部長会議が開催された。

花田庶務部長の司会進行で、尾畠・中瀬両副会長を議長に議事が進められた。母校の現状、各支部の取り組み等の報告や十八年度運営方針、予算等の協議事項について話し合われた。

各支部からは、夕陽会が高く評価されていること、女性の会や若手会員の会の結成、教職外会員の確保、期限付き教員の情報収集、会費納入割合減についてなどの報告があった。

運営方針並びに推進事項では、①会費納入率五％アップを目指す。②財政支援を求める支部は具体的に連絡する。③学生への就職対策支援、④九十周年に向けた夕陽会館の整備等が話し合われた。

総会運営について拍手で承認され、この会を終えた。

全国支部長会議

総会・大懇親会

平成十八年度 夕陽会総会

川島会長を再選

六月十七日（土）午後四時より、平成十八年度「夕陽会」総会が函館国際ホテルにおいて盛大に開催された。

本年度は、会長等の改選の年にあたり総会の開会と同時に並行して開催された役員選考委員会は、川島会長等の再任を提案し、満場の拍手をもって承認された。

報告事項では須藤幹事長より平成十七年度会務報告、谷村財政部長より平成十七年度会計報告、松田監査より監査報告があり、いずれも満場の拍手で承認された。

続いて母校関係の報告に立った川島会長は、平成十八年度の教員採用にふれ「本年度は、北海道・札幌市をあわせて一二八名が合格し、五分校の中ではもっとも高い三〇・四％の合格率を確保できた。これもＯＢの皆さんの現役組に対する指導の賜物」と述べ、引き続き現役組への支援を要請した。

挨拶に立つ川島会長

また本年四月より、新課程がスタートした母校函館校の状況について「募集人員の五倍以上の千二百人あまりが志願し高い倍率となり、優秀な学生が確保できたときいている。教員養成課程はなくなったが、学生の半数以上は教職の免許をとることを希望しており、教員を養成する使命を依然として担っている。学生の出身地としては青森・岩手を中心とした東北勢も未だ多く、東北出身者の同窓諸氏の力を感じた。」と述べた。

総会の審議風景

協議事項では、須藤幹事長が平成十八年度の方針および重点推進事項として、『創造し行動する夕陽会』をモットーに「教職外会員の組織強化」「就職対策を中心とする母校への支援の拡充」「創立九十周年記念事業成功のための準備の推進」の三点を特に強調した。

平成18年度 夕陽会総

平成18年6月17日

質疑では昭和二十四年卒・母校名誉教授の尾形猛氏より母校への一層の支援の強化が要望された。

なお、今回承認された平成十八年度本部役員は次のとおりである。

《夕陽会本部役員》　○は新役員。

会　長　川島　孝夫（昭和31年卒）
副会長　○武田　隆雄（昭和46年卒）
副会長　○沼崎　孝男（昭和44年卒）
副会長　○酒井　充（昭和46年卒）
副会長　宮下　勤（昭和41年卒）
副会長　尾畠　悌介（昭和34年卒）
副会長　○山柿　三夫（昭和29年卒）
副会長　中川真一郎（昭和40年卒）
副会長　中瀬　裕義（昭和34年卒）
副会長　奥寺　恒夫（昭和17年卒）
副会長　中谷　匡利（昭和42年卒）
幹事長　須藤　由司（昭和52年卒）
副幹事長　○花田　譲（昭和55年卒）
副幹事長　土谷　敬（昭和54年卒）
副幹事長　原子はるみ（昭和52年卒）
監　査　今野　久男（昭和30年卒）
監　査　松田　明雄（昭和30年卒）
監　査　五百川　忠（昭和32年卒）

平成二十年度には創立九十周年を迎える我が同窓会は、川島会長のもと二十一世紀の新しい夕陽会の在り方を求めて新たな航海を開始した。全会員の智恵と力を結集し新しい時代の新しい夕陽会を創造していこうではありませんか。

（昭和56年卒　千代田小学校教頭　古川　邦彦記）

変革の時を迎え さらに絆を強めた 大懇親会

総会を終え、和やかな空気に包まれた国際ホテル天平の間は、卒業同期の友とテーブルを共にし、お互いの再会を喜び合う六百名を越える夕陽会員の大きな熱気に包まれていました。そして酒井充本部副会長の先導により来賓の方々が入場すると、会場は大きな拍手に包まれました。

司会を務める須藤由司本部幹事長の進行のもと、武田隆雄本部副会長の力強い開会の言葉により平成十八年度の夕陽会大懇親会がスタートしました。

創立八十周年を記念し制定された「夕陽賛歌」を菅野博先生（平成七年卒）の指揮により、参加者全員が心を一つにして、会場一杯に歌声を響き渡らせました。その余韻が残る中、先の総会で再任された川島孝夫会長が挨拶に立ち、ご来賓を紹介したあと、四月から新たに生まれ変わった母校について触れ、「変わることの痛みを受け入れる覚悟がなければ、衰退の道をたどるしかない。我々夕陽会も二年後には九十周年を迎える。先輩の創り上げた歴史と伝統を継承し、後に続く後輩のために新しい同窓会組織を目指して歩み出そう。そして新しい道へスタートを切った母校を全力で支援していきたい。」と新たな決意を述べました。

来賓の挨拶では、西尾正範函館市助役より「函館校は、新しい一歩を踏み出した。これからも夕陽会が函館校を支え、さらに未来の歴史を創る上で、大きな力となっていただくようお願いしたい。」とのお言葉がありました。

忠嶋隆北海道教育庁渡島教育局長からは、北海道の教育の発展に寄与してきた夕陽会の功績に対して感謝の言葉が述べられ、「創造し行動する夕陽会の皆様には、強い絆のもと、子供たちの未来そして地域の未来のために、さらにご尽力をお願いしたい。」との期待のお言葉をいただきました。

杉浦清志教育大学副学長函館校担当より「人間地域科学課程という全く新しい課程をどのように軌道に乗せていくかということが我々に課せられた責務である。さらに大きな課題も抱えている中、夕陽会の皆様のご協力をお願いしたい。」とのご挨拶をいただきました。

原子はるみ副幹事長の祝電・祝詞披露の後、恒例の音楽科卒業生の合唱団による校歌・学生歌が会場の雰囲気を一気に盛り上げました。

岩村吉男渡島教育委員会教育長会長の「これからの夕陽会のため、川島会長を担いでみんなでがんばろう。夕陽とこしえにということで乾杯したい。」とのご発声で祝宴が開始されました。

会場内は、同期の友と席を共にし、青春時代に思いを馳せながら語り合う姿など、夕陽会大懇親会ならではの熱気溢れる雰囲気に包まれました。

その熱気に後押しされるようにフレッシュな新会員二十二名が登壇し、それぞれが若者らしく個性溢れる元気なアピールを行いました。さらには、松本征八知内町教育長からは、新会員に対して温かな励ましの言葉が贈られ、新たな夕陽の同志となった二十二名の胸にしっかりと刻み込まれたものと思われます。

懇親会が大いに盛り上がる中、山本公作先生（平成二年卒）の打ち鳴らす太鼓に合わせて、登壇した佐藤健先生（平成二年卒）が熱いエールを行い、さらに三三七拍子に合わせた手拍子に、会場全体が一つとなり大いに沸きかえりました。大懇親会も終わりに近づき、諸先輩方による寮歌の大合唱が始まりました。背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇し、小林周二先生の音頭で会場を揺らすような歌声が響き渡りました。

その熱気の冷めやらぬまま最後の乾杯に移り、多賀谷智函館市教育長の「川島会長のもと、新しい時代を拓く夕陽スピリットを持って行動していく決意を持たなければならない。」とのご発声に会場はさらに絆を強めながら、お開きとなりました。

最後に沼崎孝男本部副会長の閉会の言葉で夕陽会大懇親会も盛会裡に終了しました。

（昭和54年卒　駒場小学校教頭　戸澤　和彦記）

夕陽会運営方針並びに推進事項
―平成十八年度―

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1　組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と運営の効率化を図る。

(1)　各界の会員動態の把握と広報活動の充実

(2)　支部、部会等の充実と支援の強化

(3)　教職外会員及び高等学校支部、特殊教育諸学校支部の強化

(4)　女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画

(5)　本部と各支部、各ブロックとの連携強化

(6)　夕陽会報189、190、191号の発行

(7)　母校、附属学校園及び函館に関する情報の積極的な提供

(8)　夕陽会創立九十周年（平成二十年）記念事業の準備

2　人材の育成

人材の発掘と会員の地位の向上を図る。

(1)　会員である道・市町村議会議員、首長等との連携

(2)　関係機関・団体に所属する会員との連携

(3)　各支部研修活動の支援

3　財政の確立と業務の効率化

活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な推進に努める。

(1)　財政基盤の確立と諸会費納入の促進

(2)　財政業務の効率的処理

4　研究・研修の奨励と文化事業の推進

会員による個人及び共同の研究等を奨励し、特に若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1)　研究・研修助成並びに研究内容の紹介

(2)　会員による文化事業等の奨励

(3)　第八回夕陽美術展の開催

(4)　夕陽未来の教師フォーラム、教育講演会等の開催

5　母校への支援

母校の発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。

(1)　大学の地域連携・社会貢献への協力・支援

(2)　在学生（会員予定者）に対する同窓会意識の啓発

(3)　就職対策関係事業への支援

(4)　学生のスポーツ・芸術活動への支援

6　夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・充実

各種記念資料等の収集と適切な保存、陳列の充実に努める。

(1)　記念資料等の収集

(2)　館内外の環境整備、陳列品の整備

(3)　会員の作品収集と目録補遺（夕陽会報）発行

会務報告

幹事長　須藤　由司（昭和52年卒）

《一般会務》

3・5　平成十八年度版会員名簿作成委員会を開催する。（函館）

10　夕陽会報第188号を発行する。

13　北海道教育大学村山紀昭学長と北海道教育大学五校同窓会長懇談会に川島会長が出席する。（札幌）

23　北海道教育大学函館校学位記授与式（卒業式）に川島会長が出席する。（函館）

23　函館校卒業・修了生への同窓会入会手続きを本部事務局が行う。（函館）

28　就職対策に関して岩船キャリア・オーガナイザー、信田・佐藤就職相談員と川島会長・須藤幹事長が意見交換する。（函館）

30　大雪連峰旭岳鎮魂塔「大雪山愛の鐘」再建運営委員会（東川町）に寄付を行う。

4・3　北海道教育大学入学式に川島会長が出席する。（札幌）

24　函館校杉浦清志副学長を表敬訪問し、事務長等と川島会長・須藤幹事長が懇談する。（函館）

28　渡島教育局長忠嶋隆・次長豊島尚史等渡島教育局幹部を川島会長・須藤幹事長が表敬訪問する。

29　第四回本部役員会を開催する。（函館）

5・10　春の叙勲受賞者に祝意を表す。

19　全国支部長会議・本部総会・懇親会の案内状を発送・持参する。

22　平成十八年度版管理職・行政職等名簿を発注する。（函館）

23　総会に向けて幹事長・副幹事長が打合せを行う。（函館）

26　第五回本部役員会を開催する。（函館）

26　平成十七年度会計監査を行う。（函館）

29　夕陽指導主事等会会長と川島会長等が懇談する。（函館）

《支部総会・祝賀会・同期会・個展等》

3・4　美術研究室卒業作品展表彰式に川島会長・須藤幹事長が出席し、夕陽会長賞を授与する。（函館）

31　原子　修（昭和三十一年Ⅰ類卒）原作・脚本・芸術監督〈子どもの権利条約劇〉「うつくしい笑顔の花を咲かせていくわ」函館上演に祝意を表す。川島会長他多数の会員が観劇する。（函館）

4・15　函館市支部総会に川島会長・土谷副幹事長が出席する。（函館）

20　札幌市支部総会に川島会長が出席する。（札幌）

22　上川支部総会に川島会長が出席する。（旭川）

22　空知支部総会に中瀬副会長が出席する。（岩見沢）

22　釧路支部総会に須藤幹事長が出席する。（釧路）

25　渡島支部八雲支会総会に川島会長が出席する。（八雲）

5・12　室蘭支部総会に須藤幹事長が出席する。（東室蘭）

13　渡島支部総会に川島会長が出席する。（札幌）

13　小樽市支部総会に花田副幹事長が出席する。（小樽）

13　石狩支部総会に須藤幹事長が出席する。（札幌）

20　後志支部総会に川島会長が出席する。（倶知安）

20　檜山支部総会に土谷副幹事長が出席する。（江差）

23　渡島支部森支会部総会に川島会長が出席する。（森）

23　函館市支部幹事会及び新会員・幹事歓迎会に川島会長・須藤幹事長が出席する。（函館）

27　苫小牧市支部総会に須藤幹事長が出席する。（苫小牧）

30　渡島支部七飯支会総会に須藤幹事長が出席する。（七飯）

31　渡島支部北斗支会総会に川島会長が出席する。（北斗）

受賞(章)おめでとうございます

瑞宝双光章

木村　正巳　氏　昭和23年卒
七飯町字本町二四五

川畑敬三郎　氏　昭和24年卒
恵庭市北柏木町一の三〇七の二四

小本　毅　氏　昭和32年卒
石狩市花川南八の一の一〇二

瑞宝双光章…死亡叙勲

花田　次郎　氏　昭和16年卒
函館市西桔梗町七四五の一四

函館市功労者表彰

金山　正智　氏　昭和35年卒
函館市川原町四の二四

日本バレーボール協会表彰

尾畠　悌介　氏　昭和34年卒
函館市湯川町二の四三の一三

北海道書道展準大賞

大川冨美男　氏　昭和45年卒
七飯町字本町四八一の三一

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

花田　譲(附属小副校長)

1　諸会議（含懇親会）の諸準備及び進行、記録
2　文書の収受、発送及び保管
3　会員の慶弔事務
4　その他、庶務に関すること

財政部

高垣　孝二(赤川中長)

1　通常会費の徴収、支出事務
2　基本金及び特別会計の徴収、支出事務
3　予算書、決算書の作成
4　その他、財政に関すること

組織部

土谷　敬(附属中副校長)

1　支部組織の編成と組織強化対策
2　会員の動態調査（支部別、校種別会員名簿）
3　支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集
4　その他、組織全般に関すること

情宣部

秋元　順一(北美原小長)

1　「夕陽会報」の発行
2　事務局報の発行
3　web委員会による夕陽会ホームページの作成とその管理
4　その他、情宣に関すること

文化部

玉手　道男(西中長)

1　会員の文化活動に対する支援
2　文化事業（音楽会、美術展、書道展等）の企画、実施
3　その他、文化に関すること

研修部

鈴木　祐司(万年橋小長)

1　会員の地位向上対策
2　会員の個人及び共同研究への助成
3　支部ブロックにおける研修活動に対する支援
4　その他、研修に関すること

厚生部

武田　誠(北昭和小長)

1　会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施
2　記念資料及び会員の作品収集
3　夕陽記念館の整備、充実
4　その他、厚生に関すること

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはウェヴ委員会により、刷新されてから３年が経過しました。現在まで、約17,100人の方からのアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページの主な情報	会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み 会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過 母校90周年記念式典、支部・本部掲示板 本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報 渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」 母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/

情宣部ウェヴ委員会委員長　藤　井　壽　夫　(昭和49年卒)

平成十八年度 夕陽会本部役員名簿

会長　函館市深堀町35－24　川島孝夫（昭和31年卒）

副会長　函館市立駒場小学校長　武田隆雄（昭和46年卒）
函館市立的場中学校長　沼崎孝男（昭和44年卒）
北斗市立上磯中学校長　酒井充（昭和46年卒）
函館大学付属柏稜高等学校長　宮下勤（昭和41年卒）
函館市湯川町2－43－13　尾畠悌介（昭和34年卒）
北斗市押上2－3－10　山柿三夫（昭和29年卒）
乙部町字栄浜48　中川眞一郎（昭和40年卒）
札幌市西区福井2－3－25　中瀬裕義（昭和34年卒）
三沢市中央町3－10－24　奥寺恒夫（昭和17年卒）
青森市造道1－9－28　中谷匡利（昭和42年卒）

幹事長　北海道教育大学附属養護学校副校長　須藤由司（昭和52年卒）

副幹事長　北海道教育大学附属函館小学校副校長　花田譲（昭和55年卒）
北海道教育大学附属函館中学校副校長　土谷敬（昭和54年卒）
北海道教育大学附属函館幼稚園副園長　原子はるみ（昭和52年卒）

総務　函館市的場町25－13　高橋正雄（昭和18年卒）
函館市深堀町38－38　辻馨（昭和20年卒）
函館市榎本町4－5　高井信行（昭和30年卒）
函館市柏木町2－17　田中久（昭和33年卒）
函館市北美原2－13－12　信田利之（昭和33年卒）
北斗市常盤1－15－20　加藤宏文（昭和34年卒）
函館市住吉町17－18　池上信廣（昭和37年卒）
函館市榎本町6－20　繪面和子（昭和39年卒）
函館市桔梗4－5－6　絹野重治（昭和40年卒）

代表支部長　函館市立あさひ小学校長　伊藤皓嗣（昭和44年卒）
七飯町立大中山中学校長　藤枝勝雄（昭和49年卒）

代表支部幹事長　函館市立あさひ小学校教頭　津田英昭（昭和56年卒）
八雲町立大関小学校長　竹内良容（昭和48年卒）

監査　函館市中道1－28－1　今野久男（昭和30年卒）
森町字森川町303－61　松田明雄（昭和30年卒）
函館市花園町5－10　五百川忠（昭和32年卒）

顧問　北海道教育大学副学長（函館校担当）　杉浦清志
函館市花園町40－13　西村賢三郎（昭和4年卒）
北斗市常盤1－13－3　上田嘉一（昭和5年卒）
東京都東久留米市学園1－13－4　三枝三郎（昭和9年卒）
札幌市南区真駒内緑町　浅井好一（昭和11年卒）
函館市五稜郭町41－9　細田辰男（昭和11年卒）
函館市杉並町23－7　瀬川直光（昭和19年卒）
函館市柏木町4－20　安島進（昭和24年卒）

参与　名古屋市守山区小幡北1235　萩原忠臣（昭和5年卒）
函館市杉並町13－3　深澤剛（昭和8年卒）
函館市千歳町27－8　小川公也（昭和9年卒）
函館市本町22－33　加藤彬（昭和11年卒）
函館市船見町2－18　鈴木幸一（昭和13年卒）
函館市的場町24－15　高坂藤吉（昭和15年卒）
函館市東山2－17－8　北川省吾（昭和15年卒）
札幌市豊平区西岡4－5－5－8　上元啓紀（昭和17年卒）
札幌市南区川沿1－4－9－3　大場光行（昭和17年卒）
国分寺市本多2－3－5　竹野栄（昭和18年卒）
函館市梁川町22－2　西谷冨士雄（昭和18年卒）
函館市松陰町3－24　藪田幸作（昭和18年卒）
函館市元町4－7　八木幸夫（昭和19年卒）
東京都杉並区下高井戸5－19－1　木下邦茂（昭和20年卒）
函館市本町20－13　名東陽吉（昭和22年卒）
函館市川原町13－2　大坂昭雄（昭和22年卒）
函館市亀田本町53－5　中村勉（昭和23年卒）
函館市銭亀町245－39　赤泊昭吉（昭和23年卒）
函館市深堀町40－11　山尾正（昭和23年卒）
札幌市西区発寒7条　中山素水（昭和24年卒）
札幌市東区伏古7－2－4－35　町田治雄（昭和24年卒）
函館市柏木町31－5　三上巌（昭和24年卒）
函館市戸倉町19－12　吉田正巳（昭和25年卒）
北斗市本町740－15　青幹彦（昭和25年卒）
函館市亀田本町19－6　尾本金治（昭和26年卒）
函館市中道1－12－11　大淵亮三（昭和26年卒）
七飯町大中山3－303－21　杉山利夫（昭和27年卒）
知内町元町301　田島隆（昭和28年卒）
札幌市中央区北2西21－2－17　福島俊也（昭和28年卒）
函館市大川町4－43　山田富雄（昭和28年卒）
北斗市東浜1－12－30　田中則夫（昭和28年卒）
函館市柏木町16－6　田中俊也（昭和29年卒）
函館市本町17－2－602　北林秀男（昭和29年卒）
函館市中道2－2－3　永谷潤一（昭和29年卒）
函館市神山3－18－20　森野重雄（昭和30年卒）
函館市山の手2－36－7　冨尾勝（昭和30年卒）
函館市桔梗町5－21－32　大島安長（昭和30年卒）
函館市松川町42－15　小林信夫（昭和31年卒）
札幌市手稲区金山2－1－6－2　伴達夫（昭和31年卒）
八雲町教育委員会教育長　岩村吉男（昭和31年卒）
函館市湯川町2－35－7　加藤弘（昭和32年卒）
江別市大麻中町26－18大麻コーポ516　小本毅（昭和32年卒）
函館市富岡町1－12－12　田村志朗（昭和32年卒）
北斗市常盤1－20－1　磯部正博（昭和32年卒）
旭川市緑が丘3－2医大宿舎C32　藤谷利春（昭和32年卒）
函館市青柳町21－20－501　野田義成（昭和32年卒）
函館市深堀町2－8　高村昭三（昭和33年卒）
札幌市厚別区大谷地5－1－15－1513　守山和男（昭和34年卒）
函館市赤川町57　中島征士（昭和34年卒）
函館市松陰町25－36　山内洋三（昭和35年卒）
函館大学長　小笠原愈（昭和35年卒）
函館市川原町4－24　金山正智（昭和35年卒）
函館市美原2－26－9　石岡博心（昭和36年卒）
北斗市本町133－34　山内脩介（昭和36年卒）
函館市見晴町9－8　小澤叡（昭和37年卒）
札幌市厚別区厚別東2条4－10－3　青野昌勝（昭和37年卒）
七飯町中野48－7　小浅悌司（昭和37年卒）
函館市東山1－11－2　札内征男（昭和37年卒）
函館市富岡町2－59－9　笹原志郎（昭和38年卒）
函館市教育委員会教育委員　橋田恭一（昭和39年卒）
七飯町大沼町297－9　森下英治（昭和39年卒）
函館市中道2－7－18　渡利正義（昭和39年卒）
函館市深堀町18－3　吉田恵悦（昭和39年卒）
函館市教育委員会南茅部教育事務所長　石坂新一（昭和40年卒）
函館市川原町18－2－405　古旗英捷（昭和41年卒）
知内町教育委員会教育長　松本征八（昭和41年卒）
函館市深堀町14－29　齊藤孝（昭和41年卒）
函館市深堀町7－16　長谷川良任（昭和41年卒）
函館市桔梗町59－197　田中洋（昭和42年卒）
函館市西旭岡町2－23－3　寺岡昭治（昭和42年卒）
函館市深堀町16－2　門脇正和（昭和42年卒）
函館市山の手1－27－12　小山内武弘（昭和42年卒）
函館市教育委員会教育長　多賀谷智（昭和45年卒）
北海道議会議員　平出陽子（昭和46年卒）
函館市議会議員　小山直子（昭和54年卒）

平成十八年度 支部役員名簿

（札幌市）

長　横山　眞　昭44　札幌市　山鼻中長
副　小山　昌　昭44　札幌市　平岡中央小長
副　小熊　章　昭46　札幌市　太平南小長
幹　小西　雅夫　昭47　札幌市　北辰中長
会　笹原　彰夫　昭46　札幌市　平岡公園小長

（石狩）

長　西家　健悦　昭45　千歳市　信濃小長
副　竹内　昌直　昭45　北広島市　大曲東小長
副　原井　諭　昭46　江別市　対雁小長
副　高浜　正行　昭48　千歳市　祝梅小長
幹　大村　雄二　昭46　恵庭市　柏陽中長
会　阿部　徹　昭50　江別市　江別太小頭

（後志）

長　加藤　美佐子　昭45　喜茂別町　喜茂別小長
副　高橋　理実子　昭45　倶知安町　北陽小長
副　金子　雄一　昭46　仁木町　銀山中長
副　川西　三男　昭47　余市町　黒川小長
幹　黒澤　晴一　昭48　倶知安町　倶知安中長
会　新井　融　昭59　倶知安町　倶知安小頭

（小樽市）

長　小山　克満　昭44　小樽市　潮見台小長
副　清橋　義人　昭49　小樽市　手宮小長
副　本間　勝美　昭53　小樽市　松ケ枝中長
幹　渋谷　和則　昭54　小樽市　長橋中頭
会　小林　稔史　昭59　小樽市　銭函小論

（上川）

長　石川　博美　昭49　旭川市　台場小長
副　井上　松博　昭47　旭川市　末広小論
副　近藤　初美　昭54　愛別町　愛山小頭
幹　森　将人　昭57　中富良野町　南中小頭
会　平井　佐知　平10　富良野市　扇山小論

（宗谷）

長　間瀬　元　昭44　稚内市　港小長
副　谷藤　芳弘　昭44　礼文町　礼文小長
副　山口　潤　昭48　稚内市　声問小長
副　池田　忠喜　昭48　浜頓別町　浜頓別小長
副　大野　敏隆　昭48　利尻富士町　利尻小長
副　野坂　修司　昭47　浜頓別町　下頓別小頭
幹　島田　勇　昭51　稚内市　上勇知中長

（留萌）

長　秋葉　良之　平元　天塩町　更岸小頭
幹　熊倉　一弘　平3　増毛町　増毛小論
会　中野　めぐみ　平2　増毛町　別苅小論

（檜山）

長　田中　俊一　昭45　江差町　江差中長
副　吉田　正　昭46　せたな町　北檜山小長
副　林　邦彦　昭46　乙部町　栄浜小長
幹　瀬川　要三　昭51　江差町　日明小長

（渡島）

会　小田　晴久　昭46　江差町　江差北中長
長　藤枝　勝雄　昭49　七飯町　大中山中長
副　関口　文雄　昭44　福島町　福島小長
副　安藤　信男　昭46　北斗市　上磯小長
幹　竹内　良容　昭48　八雲町　大関小長
会　佐藤　幸男　昭56　北斗市　萩野小頭

（函館市）

長　伊藤　皓嗣　昭44　函館市　あさひ小長
副　三島　俊博　昭47　函館市　潮見中長
副　八木　裕　昭54　函館市　南北海道教育センター長
幹　津田　英　昭56　函館市　あさひ小頭

（空知）

長　吉田　喜一　昭47　美唄市　峰延小長
副　日高　勇一　昭49　歌志内市　西小長
副　山下　浩　昭50　岩見沢市　栗沢中長
幹　石井　秀樹　昭46　美唄市　東中長
会　南條　宏　昭57　岩見沢市　北村中頭
会　山崎　優　昭55　岩見沢市　美流渡小頭

（胆振連合）

長　宇野　敏昭　昭46　伊達市　伊達中長
副　堀田　隆　昭46　壮瞥町　壮瞥中長
副　今村　裕昭　昭47　登別市　幌別小長
副　間谷　英克　昭49　伊達市　達南中長
幹　中澤　学　昭51　伊達市　有珠小長
会　花田　啓光　平4　壮瞥町　壮瞥小論

（苫小牧市）

長　大坪　弘之　昭44　苫小牧市　大成小長
副　村田　龍介　昭44　苫小牧市　澄川小長
副　松谷　幸雄　昭45　苫小牧市　拓勇小長
副　時田　淑　昭47　苫小牧市　明徳小長
副　納　平治　昭48　苫小牧市　緑陵中長
副　小澤　博之　昭51　苫小牧市　啓北中長
副　澤谷　範男　昭52　苫小牧市　樽前小長
副　村瀬　佳典　昭53　苫小牧市　明野中長
副　小玉　雄三　昭53　苫小牧市　凌雲中長
副　小玉　章紀　昭48　苫小牧市　駒大苫小牧高長
幹　川端　則明　昭48　苫小牧市　啓明中長
会　反保　秀規　昭55　苫小牧市　明野小頭

（室蘭市）

長　長谷川　清敏　昭48　室蘭市　日新小長
副　松坂　雅行　昭47　室蘭市　朝陽小長
副　北嶋　重幸　昭51　室蘭市　向陽中長
副　後藤　寿子　昭48　室蘭市　白鳥台小長
幹　入江　祐史　昭50　室蘭市　海陽小長
会　太田　憲明　昭54　室蘭市　大沢小頭

（日高）

長　中村　道明　昭46　新ひだか町　三石小長
副　保科　昭三　昭47　新ひだか町　静内中長
副　鳥井　政夫　昭47　日高町　富川小長
副　小笠原　進　昭49　新冠町　明和小長
幹　久保田　達也　昭55　平取町　荷負小長
会　納　健二　昭52　新ひだか町　静内小頭

（十勝）

長　德成　達廣　昭46　更別村　更別小長
副　水戸　剛　昭44　上士幌町　上音更小長
副　金子　章　昭46　幕別町　古舞小長
副　安田　正司　昭46　鹿追町　瓜幕小長
副　伊藤　治久　昭47　鹿追町　鹿追小長
幹　藤代　和昭　昭49　足寄町　足寄中長
会　千葉　正夫　昭51　広尾町　音調津小長

（帯広市）

長　森戸　春樹　昭45　帯広市　南町中長
副　今森　雅仁　昭56　帯広市　広野小頭
副　高橋　正紀　昭58　芽室町　白樺学園高論
幹　金子　良子　昭47　帯広市　若葉小長
会　花井　豊　昭57　帯広市　豊成小頭

（釧路）

長　佐々木　直機　昭45　釧路町　別保中長
副　野呂　幸生　昭48　厚岸町　床潭小長
副　堀田　孝　昭44　釧路市　鳥取西中論
副　村上　稔　昭44　釧路市　共栄中論
副　誉田　洋三　昭49　標茶町　磯分内中長
幹　鳴海　厚　昭58　釧路市　仁々志別小中頭
会　磯部　和子　昭52　釧路市　朝陽小頭

（根室）

長　荒井　道夫　昭44　中標津町　養老牛小長
副　小林　哲世　昭45　中標津町　計根別小長
副　三好　政己　昭45　別海町　別海中央小長
幹　小野寺　宏二　昭53　羅臼町　羅臼小長
会　打川　真由美　昭62　中標津町　中標津東小論

（網走連合）

長　浪岡　康二　昭48　北見市　中央小長
副　小林　浩路　昭49　紋別市　潮見中長
副　斉藤　房生　昭50　西興部村　上興部小長
幹　高田　英昭　昭49　小清水町　中斗美小長

（高等学校）

長　大村　義美　昭44　北斗市　北海道上磯高長
副　野田　義成　昭32　函館市　遺愛女子高長
副　宮下　勤　昭41　函館市　函館大学付属柏稜高長
副　穴水　正　昭48　旭川市　北海道旭川北都商高長
副　村山　昭二　昭40　江別市　とわの森三愛高長
副　小玉　章紀　昭48　苫小牧市　駒澤大学附属苫小牧高長
幹　佐藤　久道　昭53　美唄市　北海道美唄聖華高頭
会　水谷　十三博　昭47　和寒町　北海道和寒高長

（特殊教育諸学校）

長　二本柳　隆通　昭45　岩見沢市　岩見沢高等養護学校長
副　島津　彰　昭48　七飯町　七飯養護学校長
副　高橋　裕　昭48　札幌市　札幌高等養護学校長
副　福井　一之　昭54　網走市　網走養護学校長
副　矢野　光男　昭56　小平町　小平高等養護学校頭
副　伊藤　友紀　平2　札幌市　特殊教育センター室長
幹　小笠原　章人　昭46　函館市　教育大附属養護学校頭
会　志村　克美　昭57　函館市　教育大附属養護小学部主事

（青森津軽）

長　白取　清彦　昭43　青森市　筒井小頭
副　渡邊　和雄　昭51　青森市　県教育庁東青教育事務所
副　木村　公司　昭56　弘前市　修斉小
副　川村　裕司　昭55　青森市　青森市教委社会教育課
幹　湯田　秀樹　平元　八戸市　八戸第一高等養護学校論
会　工藤　幸子　昭57　青森市　青森第二高等養護学校論

（青森西北五）

長　高橋　宏彰　昭59　板柳町　板柳南小論
副　野上　四郎　昭18　中泊町　北津軽郡中泊町田茂木字若宮1933
幹　木村　修治　昭61　鰺ヶ沢町　舞戸小論
会　長谷川　州子　平3　つがる市　森田小論

（青森南部）

長　永井　俊明　昭39　八戸市　八戸市新井田字上鞍森23－24
副　金谷　誠一　昭46　八戸市　八戸第一養護学校論
幹　中川　俊也　昭59　八戸市　八戸鮫中論
会　小笠原　一男　昭54　上北町　上北小論

（秋田）

長　菊池　信和　昭56　能代市　向能代小頭
副　日沼　良樹　平2　山本町　山本中論
副　黒沢　薫　昭57　秋田市　秋田市太平山自然学習センター
幹　近藤　誠輝　平元　能代市　浅内小論

（岩手）

長　田面木　茂樹　昭48　奥州市　東水沢中長
副　村上　政悟　昭51　奥州市　江刺南中長
副　熊谷　勇夫　昭52　釜石市　箱崎小長
副　山田　祐子　昭33　宮古市　宮古市緑が丘2－3
副　山口　道明　昭57　盛岡市　山岸小論
会　宮守　明美　昭55　一関市　上折壁小頭

（宮城）

長　武井　晃　昭31　松島町　松島町磯崎字割汲4－6
幹　嶋田　晋　昭44　多賀城市　多賀城中長
庶　鈴木　教生　昭30　米山町　登米郡米山町字桜岡新田2－1

（埼玉）

日　置　哲朗　昭46　さいたま市　春岡小頭

（千葉）

長　杉本　征年　昭40　市川市　市川市八幡1－20－1
副　西谷　隆　昭44　浦安市　浦安市教育長
副　近藤　弘　昭46　松戸市　高木第二小長
副　荒澤　正範　昭46　茂原市　茂原市東部台3－8－3
幹　長澤　美樹彦　昭44　浦安市　浦安中長

（東京）

長　奈良　吉彦　昭44　東村山市　北山小長
副　鈴木　利恵子　昭44　日野市　第三小長
副　後藤　正述　昭52　渋谷区　笹塚小長
副　高橋　紀彩子　昭55　渋谷区　本町田東小長
幹　相川　哲也　昭46　中野区　猿楽小副長
会　巨勢　陽江　若宮小論

就任ご挨拶

就任にあたって

副会長　山柿三夫
（昭和29年卒）

本年度総会で副会長に選出され、光栄に思うとともに責の重さを痛感しています。副会長は、十数年前に職能代表として二年務めましたが、当時は母校がこんな形で再編されるなどとは予想もつかぬ時で、のんびり過ごしていました。

実を言えば、私は今年の総会で総務の仕事を退こうと心に期していましたが、川島会長から熱い説得をうけて思い直し会長と今しばし共に歩むことに決めました。もとより私は浅学非才、その性、狷介狭量で、副会長の任には適さざる者ですが、よろしくお願いいたします。

私にとっての夕陽会は、若い教員時代は、御多分にもれず会費を納めるだけの関心の薄い存在でした。しかし年月を経て教職経験と活動の広がりを見る頃から次第に夕陽会のお陰と思うようになり、夕陽によって育てられた己を誇りに思うようになりました。私の父を初め六名の家族が、夕陽会員としてそれぞれの時と所で夕陽の温かく勁い絆の中で生かしてもらったのも不思議な縁であり、まさしく夕陽会こそ私の宝物であります。

全く個人的な感慨を述べましたが、古きを懐かしみ美化するのは、年寄りの繰り言であります。それを口にすれば、これからは若い会員から年寄りの世迷い言と揶揄されること必定であります。

もはや夕陽会は、同じ釜の飯を食ったそして同じ職業で飯をくった人達の単一的な集団ではない。それは現実に急速に進行しております。これを座視することはできぬ。他人事として対応を先送りしてはならないと愚考します。現状から近い将来を見通し、何を創造しいかに行動するかの方向性を会員の前に明示することが大切と思います。ともかく軽く老骨に鞭打ちつつ責を果たす所存です。

就任にあたって

副会長　武田隆雄
（昭和46年卒　函館市立駒場小学校長）

この度、副会長の大任を仰せつかりました。微力ではございますが、川島会長はじめ諸先輩のご指導ご助言をいただきながら、夕陽会の発展のために努力してまいりたいと考えております。

母校を卒業して以来、その時々に夕陽の方々に励まされ、温かい手を差しのべていただいたことが思い出されます。

副会長就任にあたって

副会長　酒井充
（昭和46年卒　北斗市立上磯中学校長）

この度、総会におきまして副会長に選任されました。微力ではございますが、川島会長様はじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の発展に尽くしたいと思います。

母校を卒業して早くも三十六年目を迎えます。私どもの時はいわゆる団塊の世代であり、北海道への就職はもとより、採用枠の多かった本州にも多くの人が就職していった時期でした。また、当時は広域人事の真只中でもあり、ほとんどの卒業生は全道各地に赴任したものです。

私も昭和四十六年、新米教師として後志管内蘭越町に赴任しました。五学級、七十七名の児童数でしたが、五年の間に過疎化が進み、離任する時は三学級、三十三名の学校となってしまいました。

複式授業を経験したのは、この時が初めてでした。複式は教育実習の時も経験したことがありませんでしたので、何をどのようにして授業を構築したらよいのか、非常に困ったことを覚えております。

しかし、夕陽会蘭越支会や後志支部の総会・懇談会に出席するにつれて、同窓の諸先輩と接する機会が多くなり、複式の指導の構築だけでなく、学級経営をはじめ、地域との関係や社会人としての心得等、多岐に亘って親切に教えていただいたことを今でも有り難く思っております。

「ふるさとは遠きにありて思うもの」詩人、室生犀星はふるさとのありがたさをこう表現しましたが、若き日の自分にとって夕陽会も同じような存在であったような気がします。

これからも母校への思い、会員の絆を一層大切にして、副会長としての責務を果たして参りたいと思います。皆様のご指導とご支援を宜しくお願い致します。

就任にあたって

副会長　沼崎孝男
（昭和44年卒　函館市立的場中学校長）

この度の総会において、夕陽会副会長の任をいただきました。その職責の重さを認識し、現職の副会長として役割を果たしていきたいと考えております。

私が入学した昭和四十年当時の母校は、北海道教育大学函館分校の時代です。間もなく函館校に変わりましたが、木造の旧校舎は、私たちの学舎として多くの思

同窓の温かさ

副幹事長　花田　譲
（昭和55年卒　附属函館小学校副校長）

新米教師として石狩管内の僻地四級の教職員三名の学校に赴任した際には、その中に夕陽の一年先輩のT先生がおられ、公私にわたって面倒をみていただきました。函館のことや同窓の様子など、共通の話題も多く、大変心強く感じたことが思い出されます。

その後、勤務校が変わっても、同じ学校や近隣に夕陽の方々がおられ、「夕陽」というだけで親近感を覚え、いろいろと相談にのっていただいたり、助言をいただいたりしました。

とりわけ、網走、胆振、空知、檜山、渡島と各教育局に勤務した折には、その土地土地で夕陽であることのありがたさを感じたものです。函館を遠く離れた地で、初顔の方から「センセ、ハゴダデ出身でしょ。」と言われたことが何度もあります。いわゆる「函館弁」と「夕陽の臭い」を発していたようです。次の日からは、旧知の仲のようなおつきあいをさせていただきましたし、様々なことにお力添えもいただきました。「夕陽マジック」と命名してもよいほどの目に見えない力でした。

今、母校が大きく変わろうとする中、夕陽会のあり方も見直されようとしています。その重要な時期にどれだけお役にたてるか不安ですが、これまでお世話になった方々へのお礼の気持ちも込めて、副会長としての役割を果たしてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

この四月から、類家副幹事長の後を受け、副幹事長をさせていただいております。

庶務部長と兼任ということで、慶弔関係や各種会議・会合関係の仕事もさせていただいており、本部役員や顧問・参与の方々、各支部の方々に毎日お世話になっております。

函館校を卒業後、長万部、函館、札幌、浦河、室蘭と五カ所で勤務をしてきましたが、一人の知り合いもいない土地に異動する時には、正直言って、非常に心細さや不安をもちました。そんな時、同窓の方々に出会うことは、本当に心強くありがたく思えました。

また、初めて言葉を交わした直後から、何十年来の先輩、同期、後輩のように安心して話をさせていただけるのも夕陽会の皆様のすばらしさであり、他の同窓会にはない特色だと思っています。

六月十七日の本部総会、懇親会では、来賓を含めて六百数十名の出席者で歌う「夕陽讃歌」、「寮歌」になんとも言えない「一体感」や「温かさ」を感じ、感動しました。

今、母校は新たに生まれ変わろうとしています。

現在、同窓の方々は全国各地で活躍していますが、今後、母校を卒業する後輩はさらに広い分野で活躍してくれることと期待しております。

その後輩たちに、私と同じように同窓会のよさやすばらしさを味わってもらうために、夕陽会としてなにをすべきかが、これからの課題の一つになると思っています。

今後とも、会員の皆様にはさまざまな面でご指導、ご支援をいただくことが多いと思います。

どうぞ、よろしくお願いします。

い出を残してくれました。もちろん、今は昔になった当時の新校舎にもお世話になりましたが、毎日足を運んだ現『夕陽記念館』の前に立つと、今も大学時代の自分をよみがえらせてくれます。

大学では、諸先輩から「いかに学ぶべきか」、「いかに生きるべきか」など、多くの教えをいただきました。同じ研究室に学ぶ絆を感じたのはその時です。世は広域人事が始まった頃で、史学に入学した私たちは、中学校社会科での採用はないと説明を受けたまま、新採用で千歳市の小学校へ赴任したものでした。

函館に戻り、夕陽会総会・懇親会の案内をいただきました。今振り返ると、市民会館三階の小ホールが会場で、新会員、転入会員の一人として前に並んだ記憶があります。その後は中学校勤務が大部分でしたが、校長としての着任地が幼稚園併設の小学校であったことから、人生の貴重な経験ができたと感じております。

さて、函館校が大きく変わろうとしています。教職を必ずしも目指さない総合科学課程はありましたが、この度の変革は、「再編から新生、豊かな人間性への未来地図」とのテーマの基、函館校を、「行動する教養」の取得を目指す五専攻の大学としてスタートさせました。

現職会員として、今後も教職を目標とする後輩への応援に力を尽くすと共に、幅広い人材を迎える夕陽会の飛躍を支える一人でありたいと考えております。

平成19年度

本部総会・懇親会

◆期　　日　平成19年６月16日（土）

◆会　　場　函館国際ホテル
（函館市大手町16－９　☎0138－23－6161）

・支部長会議　午後１時30分～
・総　　会　午後４時～
・懇　親　会　午後５時30分～

同期会・研究室の集い等　告知コーナー

恩師 米谷元捷先生 御退職記念感謝の会
（保健体育研究室同窓の会）

と　き／平成18年11月11日（土）
午後６時

ところ／ホテル法華クラブ函館

※会員の皆さん、ぜひ参加しましょう！　後日、案内します。
（事務局：附属小学校　☎0138－46－2235）

母校は今 ④

新生函館校のスタート

副学長（函館校担当）　杉浦清志

平成十八年四月一日、皆様の母校である函館校は、人間地域科学課程として新たなスタートを切りました。教育学部でありながら教員養成課程を持たない新課程だけのキャンパスに、果たしてどれだけの受験生が志願してくれるだろうかと心配してもいましたが、思いの外沢山の受験生が集まりました。定員三三〇名に対して志願者は一五九三名。倍率は四・八倍でした。ちなみに前年度は定員二七五名に対して志願者は八〇五名だったので約二・九倍、人数で言えば倍増に近い増加でした。後期入試の場合前期で合格した受験生は来ないので、実際に受験したのは一一四七名で三・五倍でしたが、それでも前年度の志願者数より二〇〇名以上も多く、倍率が高かっただけに優秀な人材が集まり、最終的に三四九名の新入生を迎えることが出来ました。他に大学院生二二名、別科三七名、編入学六名も迎え、初年度の入試は大成功のうちに終わったと言ってよいかと思います。

しかしこの新課程はまだ始まったばかり。新生函館校を順調かつ着実に発展させるためには、多くの課題が山積しています。入試に関して言うならば、平成十九年度はいわゆる全入元年。とどまる所を知らない少子化の波と進学率の鈍化により、全国の大学の入学定員が、受験生の数を上回る最初の年になるそうです。放っておけば倍率が下がるのは必至。また一年目の反動もあるでしょう。引き続き多くの受験生を確保するためには、昨年以上の努力が必要となります。大学説明会や高校訪問、ホームページのリニューアル等広報活動に力を入れたいと考えていますが、最も効果的な広報活動とは、外に向かって宣伝することよりも、入学した学生達に対する教育をしっかりやること、またそれによって鍛えられた学生達が様々な職場に進出して活躍してくれることだと考えています。

人間地域科学課程の学生達はまだ入学したばかりなので就職や進学は四年後になりますが、就職や進学率の向上のためには、これまで以上にキャリア教育に力を入れる必要がありますし、就職支援は当然のように、旧課程の学生にも必要です。前号で長谷就職対策委員会委員長が詳細に説明していますが、今年度はこの委員会をより機動的な就職支援センターに衣替えして、様々な施策を進めています。

その就職支援センターが新入生の希望職種をアンケート調査したところ、回答した三三三名の内教員志望は二九・九％、公務員二〇・一％、民間三〇・四％でした。このパーセンテージが卒業段階までこのままかどうかはわかりませんが、とにかく今の段階で相当数の教員志望者がいます。となればそのための授業科目の設定、教育実習先の確保、教員採用試験に向けての指導も引き続き必要です。そのためには夕陽会の皆様にもお世話いただく場面が多々出て来るでしょう。よろしくご協力いただけるようお願いします。

勿論、新たな職場の開拓も必要です。官庁や民間企業への就職は、他の一般大学に比べれば慣れているとは言えませんが、函館校には既に昭和六十三年から総合科学課程という新課程が設置され、既に二十年近い歴史があるので、徐々にそうした職場に就職した卒業生も増えて来ました。そうした先輩達の協力も得て、一層努力したいと考えています。

大学とは教育組織であると同時に研究組織でもあります。大学における教育は、研究の蓄積があってはじめて可能になります。人間地域科学課程の五つの専攻にはそれぞれ三つずつの分野があり、それぞれの分野、及び教員各自の専門に応じて研究を積み重ねていますが、同時に、人間地域科学そのものについての研究も必要だと考えています。人間地域科学とは、人間科学と地域科学という二つの学際的学問領域を融合した全く新しい学問領域であり、函館校においてまだ始まったばかりの学問です。それがどういう内容や体系を持ち、二十一世紀の社会にどう貢献できるのかは、これからの研究にかかっています。

また、教育と研究両面に関わる大きな課題として、大学院の改編があります。現在の大学院は教員養成課程に基礎を置く教育学研究科です。函館校が教員養成課程を置かないキャンパスになることによって、これまで教員養成を支えて来た教員の一部は既に他キャンパスに移動しているので、従来の大学院を維持することは難しくなりつつありますし、人間地域科学課程を卒業する学生を受け入れるためにも、彼らが卒業する四年後までには、この課程に基礎を置く新たな大学院を開設する必要があります。

新しい課程としてスタートした以上、老朽化した校舎の新築や改築も望まれますが、現在の国の厳しい歳出抑制政策の許、かなり難しい課題です。徐々に紙数が尽きて来たので書き尽くせませんが、国際交流や地域連携の活性化、大学評価に耐える大学作り等も大きな課題と言えます。

申し遅れましたが、私は新生函館校のスタートと同時に副学長に就任しました。上記のような様々な課題に応えられる力量が自分にあるとは到底思えませんが、夕陽会の皆様をはじめとする多くの方々のご協力を得ながら、出来る限りの努力をするしかないと考えています。

なお、再編を記念して前庭にソメイヨシノを植えました。既に人の身長の二倍ほどの高さなので、来年の春には花を咲かせてくれることでしょう。ご来校の節には是非ご覧下さい。

支部だより

宗谷支部だより
会員に同窓意識の高揚と誇りを

宗谷支部長　間瀬　元
（昭和44年卒　稚内市立稚内港小学校長）

宗谷管内九市町村にまたがる広域管内の中で、会員数六十余名を抱え、教職を終え宗谷の地に残られた大先輩の指導と協力のもと、役員一同二十一世紀の教育の充実と発展にむけ、鋭意努力をしているところです。

日本最北端の地にあって、教職の道を目ざした先輩諸氏の意志を引き継ぎ、毎年数名の新採用者が宗谷の地に向ってきてくれています。現在、管理職九名（校長七名、教頭二名）が先頭に立って、地域に根ざした教育を実践しているところです。ただ、北海道教育大学の再編が決定し、函館校において教員養成課程が大幅に削減されることに、寂しさと危機感を募らせています。

そのような中にあっても宗谷支部は、「会員相互の連携と親睦」「会員一人ひとりの夕陽会に対する意識の高まりと日常研修の活発化」を掲げ、取り組みを続けています。また、各市町村単位での組織体制づくりを進め、宗谷教育局の二名の先生方（生涯学習課長・指導主事）の指導や助言を受けながら、身近なところで交流し合える会を持ち、同窓会意識の喚起に努めているところです。

当支部の活動については、まだまだたくさんの問題を抱えていますが、特に若手会員の同窓意識を高めていくことが一番の課題となっています。

私を含め学芸大学経験者が今年度で退職し、いよいよ教育大学時代に入りますが、若手会員相互の交流の場を設定し、OB会員の助言をいただきながら、進んで行動できる組織づくりが急務と考えています。また、財政面も大きな課題の一つです。会費納入については、会員の三分の一程度に留っており、本部活動はもとより支部の活動にも支障をきたしてきています。会費が支部活動の充実のために生きて使われ、全会員に還元できる、見える活動を進めていきたいと思っています。

平成六年度から始まった道北三支部のブロック交流会も五巡目に入り、今年度は、夏休み中に上川（旭川市）で開催されることになっています。毎年本部から会長さん、幹事長さんにもご参加いただき、交流を深めているところです。昨年は、宗谷稚内市を会場に三支部役員、宗谷支部会員四十名を越える参加者のもと盛会裏に終了することができました。三支部（上川・留萌・宗谷）とも年々会員が減少傾向にありますが、「創造し、行動する夕陽会」の更なる発展のために今後の活動にあたっていきたいと考えています。

最後に、一昨年、現職教頭として六月に亡くなられた故大塚寛悦先生のご冥福をお祈り申し上げ、ペンを置きます。

根室支部便り
～火種を絶やさず～

根室支部長　荒井道夫
（昭和44年卒　中標津町立養老牛小学校長）

根室管内は、市町村合併で中標津町と飛び地羅臼町との合併案が住民投票まで進みました。結局のところ従来通り一市四町で構成されております。根室支部内の夕陽の歴史は古く、函館師範卒の先達が校長はもとより広く教育行政においても実力を発揮され、昭和三十年代から四十年代はじめにかけては、函館卒の管内入りは毎年二桁台であり、総会員数三桁の時代もあったと聞いております。

いわゆる「でもしか」先生の時代から根室管内は「教員養成所」とも言われ続け、二十代から三十代前半まで管内で実力を蓄えた教師達が、惜しまれながらお嫁さんまで連れて、日高山脈を越え道南、道央等へ異動するパターンが長く続いたと言うことです。

現在会員は、一般教員と管理職・行政職合わせて五十人の大台を切り、昭和組対平成組の割合が、昭和四割五分対平成五割五分となって平成優位の時代となりました。最年長の私が昭和四十四年組で今年度退職年次に当たります。管理職のうち校長職六名、教頭職四名、行政職二名の十二名が中心となって、支部活動を継続しております。平成の時代は、一般教員で毎年一人か二人の赴任があったことになりますが、三分の一は、高校と高等養護学校に在職しています。義務校以外の職種の若手との接触が会員拡大の難点の一つとなります。また、卒業同世代が自分しかいないことも積極的参加への足かせとなっています。

三年後からは、よほどのことがない限り新採用者の根室管内赴任は考えられない時代となります。支部会員の減少はさけられない訳です。少しでも元気を出し、夕陽魂を発揮するために当面考えられることを列挙します。

①教頭職・行政職の次期リーダー候補へ、夕陽の歴史と伝統を継続させる意義を理解してもらい、支部活動の組織者としての経験を積んでもらう。教頭職で他管内からの登用で近い将来出身管内へもどる会員へも同様の体験が必要です。

②人間地域科学を中心とする函館校の新しい展開を模索する時代にあって、夕陽支部の活動の意義をどう見いだし、どう具体的展開をするか、じっくりと模索します。

- 道東ブロック交流会への参加者を増やす。～今年は十勝地区十一月二十五日帯広市で開催。
- 次期教頭試験候補者の発掘～昭和六十年前後卒業者～支部長が出向き、当該校長と相談することから始める。

多難な時代にあるが「創造し行動する」夕陽の伝統の灯は、火種をしっかりと補充しつつ守り抜きたいものであります。

前納会費納入会員名簿追加分

海野　源一郎　函館　昭43
大釜　節　函館　昭39
金山　正智　函館　昭35
佐藤　毅　函館　昭43
塩崎　設男　函館　昭43
谷口　敏彦　函館　昭43
谷本　薫　函館　昭43
田仲　明子　函館　昭43
道幸　義宏　函館　昭43
中村　紘司　函館　昭38
布目　知之　函館　昭44
松谷　秀彦　函館　昭43
山本　俊秀　函館　昭43
岩佐　正治　函館　昭33
平野　優　函館　昭43
田中　信宏　十勝　昭43

（平成十八年七月一日現在）

夕陽会員訃報

中村　国松氏　昭22　17・6・19
札幌市南区常盤2の1の2の3　美智子氏
竹花　昭夫氏　昭28　17・11・19
札幌市あいの里1の8の9の20　友美子氏
松野　猛氏　昭4　17・11・22
鎌倉市岩瀬310の407　富恵氏
栗林（帰山）　薫氏　昭5　18・1・9
札幌市厚別区厚別中央2の4の5の36　正希氏
井上　保氏　昭20　18・1・10
唐津市新興町3000の3　幸子氏
小泉　弘氏　昭11　18・1・22
札幌市南区真駒内上町2の11の9　けい子氏
入江　高明氏　昭17　18・1・28
夕張市沼ノ沢826の28　節子氏
藤田　勉氏　昭4　18・2・26
札幌市中央区南2西12パシフィック三和802　征二氏
佐藤　洋三氏　昭52　18・3・4
函館市富岡町2の67の8　敬子氏
村田　英美氏　昭23　18・3・16
札幌市厚別区厚別西3の4の7の1　智子氏
山崎　徳吉氏　昭24　18・3・22
盛岡市月が丘1の16の5　博也氏
茶木　泰生氏　昭47　18・3・22
函館市大手町6の1の104　優子氏
厚谷　良宏氏　昭23　18・3・22
函館市本通3の22の15　スエ氏
佐々木　薫氏　昭5　18・3・27
函館市美原5の42の26　洋一氏
弦巻　鋼男氏　昭20　18・3・27
海老名市上今泉6の57の14　一麿氏
谷内　宏巳氏　昭30　18・4・11
江別市大麻197の50　經子氏
石岡　靖造氏　昭28　18・4・22
函館市昭和3の22の24　久仁子氏
井部外次呂氏　昭34　18・4・28
函館市花園町7の10　純子氏
永山　実氏　昭19　18・4・30
函館市美原5の25の6　フジ氏
吉川　勉氏　昭16　18・5・2
石狩市花川1の2の44　清江氏
伊藤　崇氏　昭13　18・5・13
札幌市西区二十四軒3の7の5の28の704　ミツエ氏
町田厚三郎氏　昭33　18・5・16
江別市大麻栄町33の1　富子氏
笹浪　孝徳氏　昭14　18・5・17
札幌市清田区清田7の2の12の3　和嘉子氏
磯部　俊治氏　昭5　18・5・30
今金町今金359の96　得子氏
稲島　久光氏　昭16　18・6・1
函館市松川町30の3の204　恒氏
手塚　陽一氏　昭40　18・6・24
函館市陣川1の16の14　由美子氏

（平成十八年七月一日現在）

夕陽会は　会員・学生を　応援します！

●第46回　全国教育大学卓球大会

13年振りに函館市で開催

現役学生、そして卓球部ＯＢ出場

■主催　函館校卓球部、卓球部ＯＢ会
■期日　平成18年８月９日（水）～11日（金）
■会場　函館市民体育館

暑い夏、皆で熱く応援しましょう！

編集後記

◆会報一八九号「総会特集号」をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、昨年完成した函館駅前広場です。本会報一八〇号で紹介したとおり五代目となる現函館駅舎は、平成十五年から活躍しております。旧駅舎跡に、縦・横五メートルほどの林昌平氏のパブリックアート「ＯＹＡＫＯ」が新設され、バスターミナル、駐車場、タクシープール等ゆったりとした空間の新しい函館の玄関口、駅前広場がスタートしております。

◆この度、後志で加藤美佐子氏が支部長に就任されました。函館市立小学校女性教員の割合は、数年前から五割を超えており、ますます夕陽会の女性会員の躍進が期待されるところです。

◆情宣部の今年度のスタッフは、碇幸信（昭49卒南本通小長）戸澤和彦（昭54卒上湯川小頭）古川邦彦（昭56卒千代田小頭）高間猛（昭62卒北美原小）です。どうぞよろしくお願いいたします。

（情宣部長　秋元　順一　記　昭49年卒）

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。
041－0806　函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号（0138）46－2235
夕陽会専用（0138）34－5520
ＦＡＸ番号（0138）47－7376

題字　文化勲章受章者　金子賢蔵（鷗亭）氏（昭4卒）